

なきごえ



1978

7

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

佐藤 磐根

オオサンショウウオは山間の溪流では水面に鼻先を出して空気呼吸することがない。淵の底の横穴にもぐったまま、皮ふによる水中酸素の利用だけで生きて



る。両肺を切除しても、溪流中では生きてゆけることを、実験的に証明したいけれども、特別天然記念物に対しては、こんな実験は許されない。しかし、動物を傷つけないまま、皮ふからの溶存酸素の取入れ量は測定できるのである。大阪府下で、大雨のあとなどに下流へ流されて捕えられたオオサンショウウオが、大阪府教育委員会の御厚意で私の当時の研究室（大阪大学）に飼育されていた。そのうちで最大のもは、能勢の余野川で捕えられた1メートル近くの大物で、ブリジッド・バルドールと同じくベベの愛称でよばれていた。“両生類の親分” Batrachian Boss のイニシアルによって命名されたものである。ところが、間もなく、全国的な大学紛争の波がおしよせてきて、私の宝も飼育室も、建物全体、学生の手で封鎖されてしまった。疎開とゆうことも考えてはいたが、1メートルのこの大物を安全に飼育できる所を見付けられないままに封鎖されてしまったのであった。この特別天然記念物に餌を与えるために私を封鎖建物内にはいらせて呉れと学生に懇願したが、何人にも

例外は許されないとの返事。「封鎖した玄関・窓は入るな、廊下は通るな。しかし、それ以外は関知せず」との黙認をとりつけた私は、翌日、裏庭二階の手すりにザイルを固定した。「失敗して落ちても君らの責任ではない。しかし、下から私の足を引っぱることは勘弁してくれ」——これが密約の内容であった。こうしてひと夏、ザイルをのぼってベベの顔をみに行った。登ったあと、ザイルをたぐりよせるとベベの餌のウシガエルと私の弁当の入った袋が上ってきた。その夏休み中、毎日のように会議があったが、授業はなく、封鎖建物の中で、外部から遮断されたままで、私の測定装置の組立工作は案外はかどった。

当時、医学部で、実験中のウサギが夜の間に毒殺されるとゆう異変も起ったが、私のベベはいたづらされなかった。夜毎に、誰かが入った形跡はあったけれども、「特別天然記念物」「借用飼育中」の張紙に敬意を表してくれたのか、「君らの将来は長い、しかし、私には未来があまりないのだ」といった定年退職間近い私の心根を理解してくれたのか。そして、その秋、動物学会大会で、発表する際には「封鎖学生の良識によって守られたオオサンショウウオ…」の一言をつけ加えるのを忘れなかった。大学紛争中、学生と私との心のつながりをつくってくれたベベは、いま、岡山県湯原オオサンショウウオ保護センターの特設保護池にいる。体長1メートルを越えた全国大物番付のトップクラスにのし上っている。毎年、青葉の頃、紅葉の頃、蒜山高原への旅を想う。そこにベベがいるからだ。今秋にはベベとの再会の旅を是非とも実現したい。

(大阪大学名誉教授)

なきごえ7月号もくじ

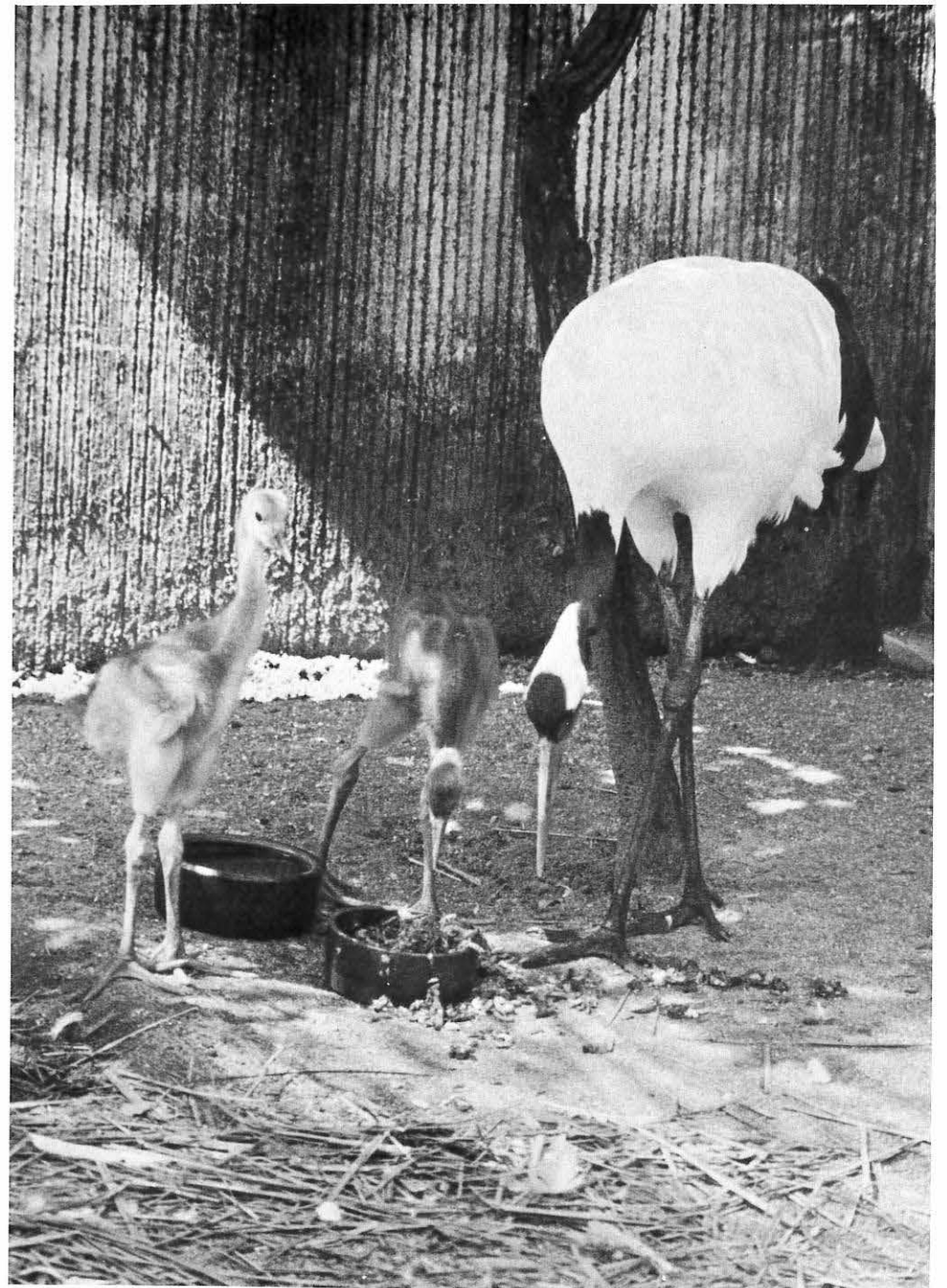
動物と私	2
タンチョウの誕生	3
動物園グラフ(動物園の獣医さんの一日)	4・5
ツキノワグマを追って	6・7
キーウイ入園満8周年	8・9
Keepers' eye ④	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“キーウイ”

昭和45年、万博の際にニュージーランド政府から贈られたキーウイのニュージー君は、この7月2日で入園満8年を迎え、元気一杯です。

(7月9日撮影：樽本 勲)



“タンチョウの誕生”

6月15日、16日にタンチョウが1羽ずつふ化しました。一昨年1羽、昨年2羽と誕生しており、これで3年連続の繁殖成功です。

(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

「動物園の獣医さんの一日」

天王寺動物園には現在353種類、約1300点の動物がいますが、毎日、いくつかの動物が傷をしたり病気をしたりして、動物園の獣医さんもその治療対策に大忙しです。今回はその獣医さんたちの仕事の内容の一部をグラフで特集してみました。
(撮影：大野尊信)



毎朝、園内を見まわり、動物の健康状態を調べます。



鳥の卵を人工ふ卵器に入れ有精・無精、ふ化の状況などを記録します。



動物の衛生予防管理は大切な仕事。定期的に寄生虫の検査もします。



死んだ動物の解剖も重要な仕事。原因を究明して、今後の予防、治療に役立ちます。



トカラヤギの赤ちゃんの前足の具合がおかしいので、レントゲン検査をすることにしました。



トカラヤギの赤ちゃんは具合が悪いので、吸入麻酔をして詳しく調べることにしました。



毎日、いろいろな動物が病気をします。その種類、大きさ、病気の様子によって、薬をいろいろ調合して与えます。



大きな動物に注射する場合は麻酔銃やピストルで注射します。

5・6月の動物園日記

- 5/6. アオダイショウが12ケの卵を産みました。フクロウのヒナ、2羽の保護がありました。
- 7. 春の動物園祭りが終り、マレーグマの仔のペットネームは「マミーちゃん」と決まりました。
- 10. 野鳥展が開催されました。
- 11. ケナガモルモットが仔を3頭産みました。サシバが産卵しましたが惜しくも無精卵でした。
- 12. インドヤマアラシの歯がまた伸び過ぎてき

- たので切ってやりました。
- 13. タンチョウが待望の卵を産みました。フサオマキザルが出産しました。
- 15. ショウジョウトキが産卵しました。
- 16. タンチョウが2個目の卵を産みました。フンボルトペンギンが1羽ふ化しました。
- 18. キヨンが1頭、出産しました。
- 20. ヤギの仔が1頭生まれました。
- 21. ゴリラのメス、ラリが食欲不振なので薬を飲ませました。
- 22. チンパンジーのサクラが下痢しているので薬を飲ませました。

- 5/23. 13日生まれのフサオマキザルは順調に育っています。
- 24. アネハヅルが産卵しましたが割れてしまいました。
- 24. ニホンジカにメスの仔が生まれました。アオダイショウが5月6日に続いて9個の卵を産みました。
- 25. アカミミガメが3個、産卵しました。
- 26. ニホンジカとスプリングボックに1頭ずつ子供が産まれました。
- 27. ゴリラのラリの食欲がだんだん良くなりました。

- 28. ニホンジカに3頭目の仔が生まれました。
- 29. スプリングボックに2頭目の子が生まれましたが、惜しくも死産でした。5月28日生まれのニホンジカの仔は人工哺育で育てています。
- 30. 沖縄のこどもの国へアオサギ他17羽の鳥をプレゼントしました。カリフォルニアアシカの仔が1頭生まれました。
- 31. オオヅルが産卵しました。
- 6/1. ニホンザルに3頭目の仔が生まれました。

ツキノワグマを追って

写真家：飯島正広

日本には、北海道のヒグマと本州等に棲むツキノワグマが生きている事は、皆さん御承知の通りです。近年クマに関する話題が、各地で聞かれる事が多くなってきました。きっと人間と熊の接点が、それだけ多くなって来たのでしょうか。



群馬県境の地である奥利根地方は、武尊山系(2137M)という豊かな森林を懐にかかえ、古くからクマの多い所として知られていました。その宝川温泉という所で仔熊が保護されたという事を私は知りました。そして私は、このクマとの接点を求めて、このクマと森ですぞすチャンスにめぐまれました。この仔熊は武雄と名付けられた雄で、この仔熊を中心に奥利根の自然を取材する事が始まりました。

最初私には、「クマは恐ろしい獣」という印象がありました。やはりまだ慣れていなかったのでしょうか。仔熊でもその迫力には私は圧倒されてしまいました。

初めて山へ行った日、武雄は、その小さな瞳で私をじっと見つめました。変な機械を持った人間だな、きっとそう思ったのではないのでしょうか。

慣れてくるにしたがって、私の中でクマを恐ろしいと思う事が消えて行きました。むしろクマは神経質で、臆病者ではと感じはじめました。ある日撮影をしていると、おばあさんが杖をトントンとたたきながら山を登って来ました。私には気が付かなかったのですが、武雄はもうそれを凝視していました。きっとその変な音に気が付いて、おどろいたのでしょうか。20mもあるミズナラの木から一目散に、降りて来てしまった事がありました。武雄は、又非常に好奇心が強く、何んにでも手を出し、口に入れてみなければ、いてもたっても居られ無いと言った感じです。まだやはり幼なさが残っていたのでしょうか。



ほとんどのクマは単独生活をしますが、雌は子供と2年間ほど生活を共にすると言われていますが、まだ詳しい事は解かっていません。野生のクマは明け方や日没後に行動する事が多い様です。秋になって、一夜あけると森の木が所どころ折られているのを見つける事ができます。これをこの地方では、クマ糞と言います。これは、クマが自分で食べた枝を尻の下にひいて、いつのまにか木の枝が大きな玉の様に成る事を言います。私も1m位あるクマ糞を、見た事があります。

武雄を山へつれて行って気が付いた事があります。それは便や腐敗臭に異常に興味を示し、それを体に塗る性質です。又、ペンキなどで書いた道標にも体を、こすりつけていました。これらには私も閉口しましたが、何かユーモラスにも思いました。

クマの生活の中で一番特長のある事は、冬眠をする事でしょう。初雪の便りが聞かれる頃、クマは手頃な岩穴・樹洞などに入り、3月の中旬位まで長い冬眠に入ります。この間に雌は、200~300gの子供を穴の中で産みます。冬眠は深いものではなく、外



から刺激すると反応を示すと言われています。冬眠中の体温は15℃、呼吸数は3回/minと言う報告があります。冬眠の穴を調べに猟師の人について山を歩いてみましたが、近年人家の近くの崖や炭焼きの穴など、思いもかけ無い所でクマが冬眠する事を知りました。冬眠がさめた頃、クマは穴からはあまり離れず、出たり入ったりの生活をして、消耗した体力の回復に務める様です。この頃の山はまだ一面の銀世界で、クマはブナの木の下から顔を出し、きっとこの銀世界をながめているのでしょうか。飼われている武雄は冬眠をしませんでした。

春のある日、私は、近くの山へ武雄をつれて行きました。武雄は檻から出されると、一目散に山へ向かって走って行きました。もちろん私もです。武雄はひと抱えもあるナラに、飛びつくやいなやドストドスと登って行きました。体重をしっかりと爪にかけ、手で木を抱える様に登って行きました。武雄はブナ・ナラの新芽を、食べる様に口につつまみしました。又、山桜が咲くと花ごと口にもって行きました。きっと少量のミツが、たまらなかったのでしょうか。私は武雄の為にアメや角砂糖を持って行きました。甘い臭いでもするのか、すぐ鼻をきかせて近づいて来ました。甘い物には、目が無い様子です。山にある植物は何んでも口に入れていました。又、アリの巣やハチの巣があるとその強大な手でたたきつぶして、舐める様に食べていました。夏に捕獲されたクマの胃袋を調べると、アリがつかまっていたという報告があります。各地で養蜂家の巣箱が襲われるのはちょうどこの頃です。

山の緑が濃くなり、やがて秋風が吹く様になります。ブナ・ナラなどの木にはドングリが付き、ヤマ



ブドウ・クリ・カキなども実をつける様になると、武雄も冬を越すためか前よりも多く食べる様になりました。

年によって山の実りが少ない時には、野生グマが人里近くにも出没する様になり、畑などを荒らしたりする事があります。なぜ野生グマが、人里近くまで降りて来なければならないのか、少し考えてみたいと思います。私がいた奥利根地方でも、国立公園である尾瀬側の森林は残されているのですが、その裏側の国有林は、かなり伐採されています。山の奥のブナ・ナラなどの原生林が切られて行くと、彼らの食料や冬眠に使う樹洞が無くなってしまいます。クマにとって冬眠ができ無い事は、死を意味すると言っても、過言では無いでしょう。それ故に人里近くまでクマが来て、冬眠せざるをえなくなってしまうのです。日本では6600頭近くのクマが生活しており、捕獲数が3000頭近くもあると言う報告があります。クマの様に繁殖能力が弱く、又、生活する場である広い森林を失いつつある動物は、やがて絶滅してしまうかもしれません。私達の心の中には、どうしても恐ろしいイメージがあるクマですが、武雄を見る限りにおいては、人間に対して敵対意識があるとはこの取材中感じられませんでした。日本のクマを悪くしているのは、日本人なのでは無いのでしょうか。私はもちろん人間の生命の方を軽んじる気持はありませんが、人間と熊との接点がもう少し改善され、又、クマもヒトも棲める森を残して行く事が、これからの課題と言えそうです。

きっとあのブナの木の上で吠えていた武雄も、そう私に訴えていた様な気がしてなりません。

キーウィ入園満8年を迎えて

キーウィの近況について

1970年、万博記念にニュージーランドから贈られたキーウィのニュージー君、7月2日で、無事に来園8度目の夏を迎えようとしています。

その間、昼間は木穴の中で眠っているばかりで、一向に出歩かないという生活は、8年間、一見何の変哲もないように見えますが、夜の生活は随分変わりました。次にかかげた表は単なるデータに過ぎません。しかし、あえてこれを羅列したのは、これこそ、今迄のニュージー君になかったものだからです。どうぞじっくり御覧いただきたいと思えます。

これまで、キーウィは何時頃、何回なくのか、という御質問をよく受けました。しかし、ニュージー君は、暗くなって巣穴から出て来てすぐに啼く、と云う事は極めて少なかったのです。

録音器にタイマーをつけて、3時間廻し続ける事で、いろいろな時間帯に何回か啼く、と云う事は判りましたが、毎晩、暗くなりきる迄つき合っても、なき声を聞かせてくれる事は仲々ありません。私はそういうものだと思っておりましたが、事情は昨年頃から急に変わったのです。



キーウィ来園7周年を記念して、7月始めから2週間、キーウィのなき声の録音がキーウィ舎に流されました。ニュージー君も眠りながら、おそらく聞こえていたでしょう。その催しが終わってから7月18日、突如としてニュージー君が鳴き出したのです。

8月6日迄、毎晩かかさず8時頃になると鳴きました。暗さの関係から見て、巣から出て一廻りするかしなにかの短い時間で、すぐになき始めている事になります。しかし、8月7日、近くで工事が始まって、その時以来、この習慣はぶつりと途切れてしまいました。しかし、私はもともとこれだけの張り切り様は、かえって、今迄の様子から考えて異常であり、もとに戻った迄の事だと思っていました。ところがそうではなかったようです。それは表を見ていただければ判るように、今年5月からは鳴く頻度が非常に増えました。

5月5日以後、月日のぬけているところは、休んだり、早く帰ったりで、キーウィの出で来るべき時間に、こちらがいなかった時です。鳴かなかった(もっと遅い時間帯で鳴いたかも知れません)のは、ほんの僅かです。今やニュージー君は、巣穴から出るやいなや、堂々と胸をはって、領土宣言か、もしくは花嫁さがしをしているわけです。

しかも変わったのはそればかりではありません。キーウィの観察と云えば、これまで、息をつめ、物音一つ立てずにいなければなりませんでした。(もしくは、ガラス越しの廊下側からの観察)それでも巣穴から出てくるのに、長い長い時間が必要だったのです。(こちらの入室の際の物音の為に)しかし、近頃は鳴いた後で行けば、鳴かなかった時でさえも、キーウィの出でくる時間でさえあれば、たいてい出て来てくれます。こちらが入室している事を百も承知の上で、ドアの処で待ち伏せたりします。岩穴にいる時でも、ふざけ半分の呼び出しには殊に敏感で、待ってました!とばかりフンフン云いながら、すぐにやって来る様子は、これ迄かたくなだっただけに、言葉につくせない喜びを与えてくれます。勿論、ニュージー君が、一部の鳥達のように、甘えるというのではありません。甘え声を出したり、体をすりつけたり、頭をかけと云ったりするのではないのですが、私の声を追って、(キーウィは視力が弱いと云われています)岩穴から出たり入ったり、アチコチ目まぐるしく動く様子は、まるでカクレンボかオニ

ゴッコをしているような気分があります。あの来園当時のおびえきった様子からは格段の違いです。でも、これだけの事に8年もかかるなんて、担当者も担当者なら、ニュージー君もニュージー君です。まあ、夜行性の故にしておきましょう。

キーウィはドタバタ走る、と云う表現が記されていますし、私もこれ迄、そう思っていました。いつも走る時は、狼狽したような走り方でしたから。しかし、それはほんとに狼狽して走っていたのでしょ

う。或は、ワナにかかった左足がもうひとつだったのかも知れません。今のニュージー君の走り方の見事さは、まるでずべる様です。私よりはるかに速く、足音も立てません。動物というものの観察は、長い時間をかけ、深く関わり合わなければ、ほんとのところ判らないものだと、つくづく思う昨今です。

(6・27)

(飼育課：磯田啓子)



月日	時刻	回数	月日	時刻	回数	月日	時刻	回数	月日	時刻	回数
S.53年			5/13	7:50	19	5/27	9:03	22	6/15	8:12	11
1/8	6:00	16	5/14	8:15	25	5/28	7:45	18	〃	9:05	18
1/9	6:00	23	〃	8:40	25	〃	8:15	19	〃	9:45	20
1/13	5:55	24	5/16	8:30	9	5/29	8:50	23	6/16	なかず	
〃	6:10	9	5/18	なかず		5/30	8:03	14	6/17	8:30	15
3/17	7:00	20	5/19	8:35	14	〃	8:30	15	6/18	8:55	7
4/21	7:25	21	5/20	8:05	2	5/31	なかず		6/19	8:10	14
5/5	7:40	21				(途中で中止の為)	6/3	なかず	〃	9:20	20
5/6	なかず		5/21	7:45	8	6/4	なかず		6/23	なかず	
5/8	7:30	18	5/22	7:55	18	6/5	7:50	15	6/24	8:03	14
5/9	7:40	10	5/23	7:40	18	6/6	8:10	7	〃	8:24	20
5/11	7:40	24	〃	8:15	18	6/10	8:10	8	6/25	7:58	18
5/12	8:10	11	〃	9:05	3	6/11	8:15	11	6/26	なかず	
〃	8:40	10	5/27	8:05	24	6/12	8:00	9			

※ 時刻：午後

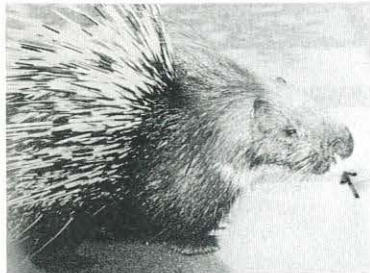
※ 回数：キーウィは名の通り、キーキーと段々オクターブをあげてなきますが、鳴き始めてから鳴き終るまでの間に何回鳴いたかという回数です。

キーパーズ・アイ Keepers' Eye ④

☆名案 珍案

係員「ゴールデン・キャットのメスが鼻水を出しているんだけど、どうする」獣医「じゃ、薬を餌にまぜて与えてくれる」係員「でも、薬を入れたら餌を食べないかもしれへんで」日常私たち飼育係員と獣医さんとの間に交わされる会話。そして、動物の治療方法や、投薬方法について、いろいろと名案・珍案がとびだす。結局、鼻水を出しているゴールデン・キャットの治療方法として、ネコの仲間たちが、全身をきれいなて、毛づくろいをする習性を利用して、薬を体に吹きかける事になりました。動物達を治療するにあたって、なるべくその動物に合ったやり方を、考えるわけです。

今までに、考えだされた名案・珍案は数多くあります。例えば、タテガミヤマアラシのおばあさんは、下の門歯の1本が上の門歯とかみ合っていないため



に、どんどん長くなって餌が食べにくくなるので、定期的に長くなった歯を切るのですが、なにしろ体中が針だらけのヤマアラシの事、

右下の門歯2本がかみ合わせがうまくいかず写真(矢印)のように横から長くのびてきます。手網で捕まえて歯を切る事などできません。そこで出た名案は、寝室の鉄格子のとびらとカベの間に、ヤマアラシのおばあさんを追いこんで

んで、鉄格子のとびらで、ヤマアラシのおばあさんをはさんで歯を切る方法です。この方法だと、危険も少ないし、ヤマアラシのおばあさんを傷つける事ありません。この様に、私たち飼育係員と獣医さん達の間で、これからも名案・珍案が考え出される事でしょう。



寝室の扉と壁の間にヤマアラシをはさみます。

(農本 武志)



歯を切る特殊なハサミで伸びすぎた歯を切りそろえてやります

☆ロック・クライミング特訓中

ロッククライミングと言えば、岩山を登る体力のいるスポーツですが、ここ動物園の北園にも山登りを特訓している動物がいます。特訓にたえているのは、今年の3月22日に生まれた、おすのパーバリーシープ1頭と、同27日生まれのおすとめすです。

「こんな岩山くらいちゃんと登れないならパーバリーシープをやめてしまいなさい」「なさない仔達ネ!」と言わんばかりに、母親のパーバリーシープは、時にはきつくしらん顔をしたり、また「もうすこしよ!がんばって!」と心配そうに、子供のパーバリーシープが、登ってくるのを、じっと見守っています。そして、けわしい岩山で生活している様にと、母親の特訓がつづいているのです。もうすぐ、この3頭の新入登山家たちも、きっと、この岩山をかけ上がり、又すばやく降りる事の出来る日が来る事でしょう。みなさんも、動物園へ来られた時、どんなにうまくなったか見てやって下さい。



急な岩山を登る練習のまっ最中



岩山の頂上で下を見おろすパーバリーシープ

(仲谷 登)

動物園ニュース

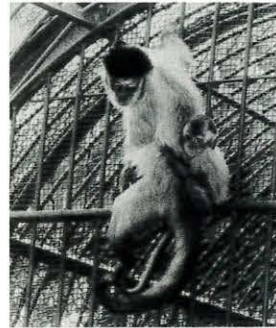
★出産ラッシュ

3月末よりシュバシコウが4巣で抱卵をしていましたが、そのうち1巣でヒナが3羽ふ化しているのが確認されました。残りの3つの巣の卵はどれも無精、中止卵らしく、ふ化の望みはほとんどありませんが、ふ化した3羽は元気に成育中です。

ニホンザルも繁殖は順調で、4月21日に1頭生まれたのを始めとして、5月2日、31日、6月16日、17日と各1頭ずつ生まれ、計5頭が誕生してサル島はベビーラッシュです。

5月13日、フサオマキザルが生まれました。母親はこれが3度目の出産で、過去2回共母親が仔のめんどうを見ず人工哺育で育てたため、今回も心配されましたが、3度目の正直とばかり、今度は母親がじょうずに育てています。

5月18日、キヨンが1頭誕生しました。最初は岩かげや小屋の隅にかくれてほとんど姿を見せませんでしたが、最近やっと両親と共に姿を見せ、放飼場の中を元気よく走り回っています。



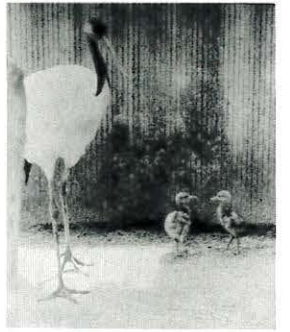
出産がなくて残念がっていたのですが、久しぶりの出産に係員一同大喜びです。誕生の翌日には初泳ぎしているのも見られ、元気一杯に育っています。

☆フラミンゴの産卵

5月30日、キューバフラミンゴが産卵したのを始めとして6月12日までに計6卵、産卵しましたが、破卵などあって現在2卵抱卵中です。うまくいけば7月初め頃に、かわいいヒナが誕生することでしょう。

☆タンチョウ、3年連続のおめでた

5月13日、16日にタンチョウが産卵し抱卵を続けていましたが、6月15日、16日と相ついで各1羽ふ化しました。(ふ化日数33日、31日)一昨年1羽、昨年2羽と繁殖に成功しており、今年で3年連続のおめでたです。当園のタンチョウはこれで7羽の大所帯になりました。



☆キーウィ入園満8周年

1970年の万国博覧会を記念してニュージーランド政府から贈られた珍鳥キーウィが、7月2日で丁度

夢が広がるショッピング……
近鉄がお届けします



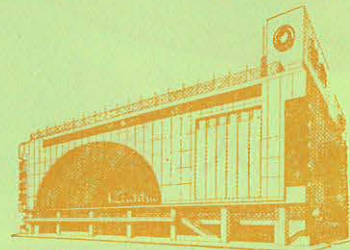
上本町近鉄 TEL. (06) 779-1231



アベノ近鉄 TEL. (06) 624-1111



奈良近鉄 TEL. (0742) 33-1111



東京近鉄



キーパーズ・アイ Keepers' Eye ④

☆名案 珍案

係員「ゴールデン・キャットのメスが鼻水を出しているんだけど、どうする」獣医「じゃ、薬を餌にまぜて与えてくれる」係員「でも、薬を入れたら餌を食べないかもしれへんで」日常私たち飼育係員と獣医さんとの間に交わされる会話。そして、動物の治療方法や、投薬方法について、いろいろと名案・珍案がとびだす。結局、鼻水を出しているゴールデン・キャットの治療方法として、ネコの仲間たちが、全身をきれいなてなめて、毛づくろいをする習性を利用して、薬を体に吹きかける事になりました。動物達を治療するにあたって、なるべくその動物に合ったやり方を、考えるわけです。

今までに、考えだされな名案・珍案は数多くあります。例えば、タテガミヤマアラシのおばあさんは、下の門歯の1本が上の門歯とかみ合っていないため



に、どんどん長くなって餌が食べにくくなるので、定期的に長くなった歯を切る



歯を切る特殊なハサミで伸びすぎた歯を切りそろえてやります

☆ロック・クライミング特訓中

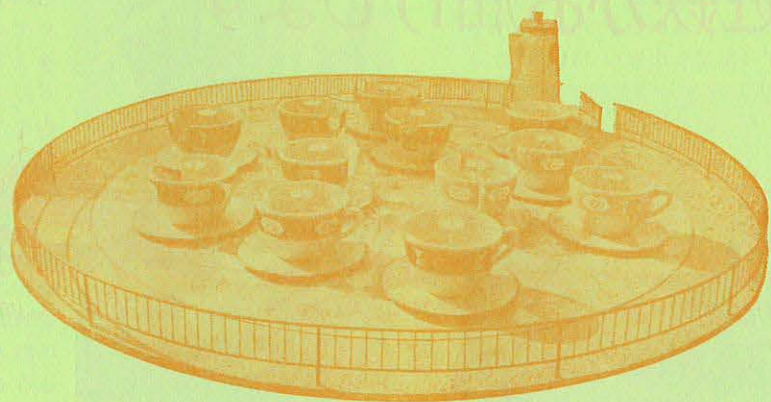
ロッククライミングと言えば、岩山を登る体力のいるスポーツですが、ここ動物園の北園にも山登りを特訓している動物がいます。特訓にたえているのは、今年の3月22日に生まれた、おすのバーバリーシープ1頭と、同27日生まれのおすとめすです。

「こんな岩山くらいちゃんと登れないならバーバリーシープをやめてしまいなさい」「なさけない仔達ネ!」と言わ

んばかりに、母親のバーバ



遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

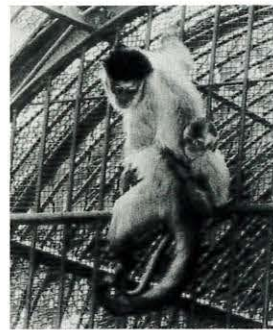
動物園ニュース

★出産ラッシュ

3月末よりシュバシコウが4巣で抱卵をしていましたが、そのうち1巣でヒナが3羽ふ化しているのが確認されました。残りの3つの巣の卵はどれも無精、中止卵らしく、ふ化の望みはほとんどありませんが、ふ化した3羽は元気に成育中です。

ニホンザルも繁殖は順調で、4月21日に1頭生まれたのを始めとして、5月2日、31日、6月16日、17日と各1頭ずつ生まれ、計5頭が誕生してサル島はベビーラッシュです。

5月13日、フサオマキザルが生まれました。母親はこれが3度目の出産で、過去2回共母親が仔のめんどうを見ず人工哺育で育てたため、今回も心配されましたが、3度目の正直とばかり、今度は母親がじょうずに育てています。



5月18日、キヨンが1頭誕生しました。最初は岩かげや小屋の隅にかくれてほとんど姿を見せませんでしたが、最近やっと両親と共に姿を見せ、放飼場の中を元気よく走り回っています。

ニホンシカは5月24日、25日、28日と各1頭ずつ生まれ、2頭は母親の元で育てていますが、最後に生まれた1頭は現在人工哺育で育てています。3頭共発育は順調です。



5月16日、トラが出産しました。最初は母親がうまく育てていたのですが、33日目に母親が仔の世話

をしないため、人工哺育に切りかえて育てています。仔は3頭共メスですが、うまく人工哺育になじんでくれるかどうか心配です。

5月26日、スプリングボック(オス)が誕生しました。スプリングボックは今年で5年連続のおめでたで、順調な繁殖ぶりです。

5月30日カリフォルニアアシカが1頭生まれました。ここ2年間



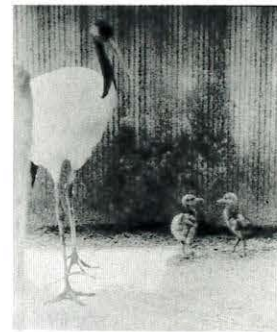
出産がなくて残念がっていたのですが、久しぶりの出産に係員一同大喜びです。誕生の翌日には初泳ぎしているのも見られ、元気一杯に育っています。

☆フラミンゴの産卵

5月30日、キューバフラミンゴが産卵したのを始めとして6月12日までに計6卵、産卵しましたが、破卵などがあって現在2卵抱卵中です。うまくいけば7月初め頃に、かわいいヒナが誕生することでしょう。

☆タンチョウ、3年連続のおめでた

5月13日、16日にタンチョウが産卵し抱卵を続けていましたが、6月15日、16日と相ついで各1羽ふ化しました。(ふ化日数33日、31日)一昨年1羽、昨年2羽と繁殖に成功しており、今年で3年連続のおめでたです。当園のタンチョウはこれで7羽の大所帯になりました。

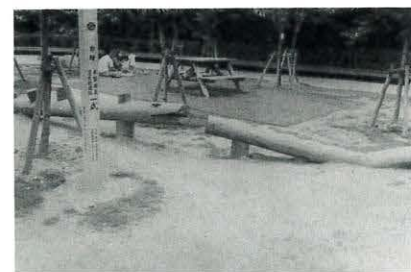


☆キーウィ入園満8周年

1970年の万国博覧会を記念してニュージーランド政府から贈られた珍鳥キーウィが、7月2日で丁度満8年になりました。夜行性の鳥だけにその姿を現在の設備ではお見せできないのが残念ですが、毎晩活発に動き回り、時々、特有のかん高い声をあげています。

☆木製遊具(ワニ)等の寄贈

このたび、南ロータリークラブと難波ロータリークラブより、木製遊具(ワニ5基)と芝生保護板(22㎡)の寄贈を受けました。



この遊具で、楽しそうに遊んでいました。

さる6月20日、北園ファミリー広場にて、この贈呈式が行われ、早速、ワンパクチッコ達が、こ

毎月第3月曜日は休園日です。9月までの休園日は下記の通りです。

7月17日、8月21日、9月18日
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

なきごえ 昭和53年7月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂

定価100円(送料共)

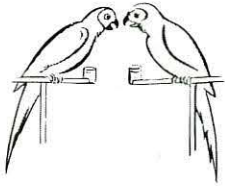
第14巻第7号(通巻155号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

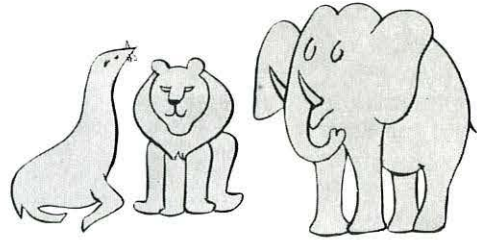
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

〈板野 健一・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志〉
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・霞谷 文彦・仲谷 登